

を立ち上げている。制度設計班は、制度のシステムの概要を設計するグループであり、認定に関する経済的な基盤や、暫定資格の要件などの点に関して、検討を進めている。オンライン申請システムは、本制度で、効率的な運用のためにどうしても必要なシステムであり、具体的な導入に関して検討している。専門家資格の申請には、一定期間の会員歴、教育ワークショップへの参加経験を前提として、コースワークへの参画と、ポートフォリオの構築を求めている。コースワーク班は、そのコースワークの実質を開発するグループであり、「教授と学習 (teaching and learning)」、「評価 (assessment)」、「教育計画の立案と分析 (curriculum development and evaluation)」をシリーズ化している。専門家資格制度にエントリーした方は、それぞれのコースワークを次々に修得することになる。コースワーク班は、それぞれのコースワークの運用を担っており、すでにトライ

アルが実施されている。さらに認定専門家資格の申請の際には、「認定用教育ポートフォリオ」が求められるが、その作成マニュアルやフォーマットの作成、さらには評価に携わるスタッフの養成などを、担っているのがポートフォリオ班であり、それぞれのWGが精力を注いでシステムの運用に向けて進んでいる。実際は、WGメンバーには重複も多く、スタッフの負担も大きいことから、コースワークのトライアル等を通じて、コアスタッフとなる人材開発もWG全体の大きなミッションの一つとなっている。

全体統括：藤崎和彦、コースワーク：岡田唯男、菊川誠、西城卓也、鈴木康之、田川まさみ、ポートフォリオ：錦織 宏、春田淳志、渡邊洋子、制度設計：大西弘高、高村昭輝、守屋利佳、アドバイザー：井内康輝、大谷尚、吉岡俊正、吉田素文

9. 基礎医学・生命科学委員会

井内 康輝（委員長・(株) 病理診断センター）

第16期(2009-2012)の本委員会では、医学教育の中で基礎医学・生命科学分野の教育はどうあるべきかを、幅広い分野を横断した形で議論をはじめた。その結果、2009年8月、第33回医学教育セミナー&ワークショップ(岐阜大)での“医学部における基礎医学教育を考えるー研究者養成の起点として”と題したワークショップ、2010年7月の第42回大会(東京)、2011年7月の第43回大会(広島)におけるそれぞれシンポジウムとパネルディスカッションを主催した。それらの集大成として、2012年2月、東京においてシンポジウム“基礎医学振興のための大集会”を主催し、基礎医学・生命科学の各分野から教育の最前線や問題点を伺った。こうした活動は、文部科学省GPプログラム“医学・医療の高度化の基礎

を担う基礎研究医の養成”の提案に繋がったと考える。これには39大学の応募があり、うち10大学が選定されて、2013年度からスタートした。

第17期の本委員会は2012年7月に発足し、2013年7月の大会(千葉)では、前述の文部科学省GPプログラムに選定された取り組みを、パネルディスカッションの形で報告してもらうこととした。順天堂大、滋賀医大、熊本大の3大学の発表は他大学へもよい情報が提供できたと考えられる。次いで、基礎医学の模範的な講義や実習を紹介するワークショップとして、2013年11月2日、順天堂大にて、鍋倉淳一先生(生理研)による講義、柳澤輝行委員による実習、小林直人先生(愛媛大)による医学教育の基本に関する講演を計画している。